

学校紹介

佐賀県立 武雄高等学校・武雄青陵中学校

1 沿革

明治 41 年	旧制武雄高等女学校創立
昭和 3 年	旧制武雄中学校創立
昭和 23 年	旧制武雄高等女学校，旧制武雄中学校を統合し，新制武雄高等学校を開校
昭和 57 年	学校規模適正化のため，武雄高等学校を6学級とし，武雄青陵高等学校を開校
平成 19 年	武雄高等学校と武雄青陵高等学校を再編統合し，武雄高等学校（新設）を開校。同時に武雄青陵中学校を開校し，併設型中高一貫教育を開始
平成 20 年	武雄高等学校創立 100 周年記念式典開催



武雄
高等学校



武雄青陵
中学校

2 学校概要

佐賀県立武雄高等学校は，明治 41 年創立の武雄高等女学校を前身とし，今年で創立 107 年目を迎える伝統校です。卒業生徒数は 3 万人を超え，元佐賀県知事，元兵庫県知事の母校でもあります。

校舎は御船山の麓，武陵桃源と讃えられる自然に恵まれた高台に建ち，佐賀県立宇宙科学館，武雄市図書館・歴史資料館（エポカル武雄）などの文化施設に近接しています。

平成 18 年度までは，武雄市には武雄高等学校と武雄青陵高等学校という 2 校の普通科高校がありました。その 2 校が，少子化の影響から平成 19 年に再編統合され，新設の高等学校が誕生しました。こうして誕生した新設の高等学校の校名は，武雄高等学校の校名をそのまま引き継ぎました。また，このとき同時に県立中学校が開校し，併設型中高一貫教育が導入されました。このときに開校した県立中学校が佐賀県立武雄青陵中学校で，武雄青陵高等学校の校名をそのまま引き継ぎました。

平成 19 年に開校した武雄青陵中学校は，もともと武雄高等学校から西に約 2 km 離れた花島という地区にあった武雄青陵高等学校の校地，校舎をそのまま利用しています。そのため，中高一貫教育校でありながら，中学校と高校の校舎は約 2 km 離れています。中学生と高校生が日常的に交流する機会は少ないのですが，開校記念遠足や芸術鑑賞会，総合的な学習の時間の成果発表会など中高合同で行われる行事も多く，また，高校生が中学生に勉強を教える「ジョイントスタディ」という行事もあります。こうした中高合同の行事は，日常的な交流が少ないからこそ，お互いにとって良い刺激になっています。

高校の校章



中学の校章



中高一貫教育の
シンボルマーク



3 学校規模

(1) 武雄高等学校

	1年	2年	3年
学級数	7	7	7
定員	280	280	280

(2) 武雄青陵中学校

	1年	2年	3年
学級数	3	3	3
定員	120	120	120

4 教育目標

『高い志と未来を切り拓く力をもち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。』

上記が本校の教育目標です。

学校概要でも述べた通り、中学生と高校生の日常的な交流は少ないのですが、武雄高等学校と武雄青陵中学校は併設型の中高一貫教育校ですので、武雄青陵中学校の生徒は入学者選抜なしで武雄高等学校に進学します。

高校入試のないゆとりある6年間の中で、毎日の勉強や部活動だけでなく、様々なことに挑戦し、高い志を磨き、将来の夢に向かって努力していった欲しいと考えています。

5 本校の特色

(1) 全日制課程普通科

武雄高等学校は全日制課程普通科の高校です。ほとんどの生徒が、高校卒業後は国公立大学をはじめとする大学等への進学を希望していますが、実際の進路は多種多様で、毎年100名を超える生徒が国公立大学に進学する一方、私立大学に進学する生徒も多く、また、看護医療系の専門学校に進学する生徒も一定数います。ただし、就職する生徒は非常にまれで、公務員が中心です。

(2) 文武両道

部活動も大変盛んで、武雄高等学校には体育部

が12部、文化部も12部、武雄青陵中学校には体育部が10部、文化部が4部あります。

中学、高校とも九州大会や全国大会に駒を進める部活動も多く、生徒たちは文武両道を目指し、毎日、勉強と部活動に熱心に取り組んでいます。

(3) 校外活動

武雄高等学校の生徒は、学校外で行われる活動に自主的に参加する生徒が非常に多く、日本の次世代リーダー養成塾やサイエンスサマーキャンプ、ボランティア講座など、外部の機関や研究施設、大学等が主催する活動に、多い年には延べ500人以上が参加します。

また、佐賀県が主催する「世界とつながる佐賀県青少年交流推進事業」に参加して海外との交流を深める生徒や、夏休みを利用して短期の海外研修に参加する生徒もいます。最近では1年間の海外留学を希望する生徒も多くなってきました。

(4) 探究Ⅰ・探究Ⅱ（総合的な学習の時間）

本校では、総合的な学習の時間を「探究」と名付け、中学校の活動内容を「探究Ⅰ」、高校での活動内容を「探究Ⅱ」と呼んでいます。

具体的な活動としては、中学1年生は佐賀県内の産業・文化・民俗等について学ぶ地域学習を、中学2年生は働くことについて学ぶ職場体験学習を行います。中学3年生は、各自の興味・関心に応じて、理科の課題研究を行う自然探究と、異文化理解についての課題研究を行う国際探究に分かれて活動します。これらの活動を最終的にレポートにまとめ、代表者が中高合同探究発表会で発表します。

また、高校1年生は社会の諸問題についての協働学習を、高校2年生は現代社会の抱える諸問題をテーマとしたディベートを行います。高校3年生は、各自の進路実現に向けた小論文研究を行います。中高合同探究発表会では、高校1年生は代表者がプレゼンテーションを行い、高校2年生はディベートの決勝戦を行います。

中高6年間を通したこの「探究」活動を通して、知的探究心を培うとともに、主体的な進路選択能力を養っています。

(5)ICT 利活用教育

武雄高等学校では、すべての普通教室(21教室)と多目的教室、視聴覚教室に、武雄青陵中学校では、すべての普通教室(9教室)と4つの選択教室に電子黒板が設置されています。また、高校生は入学するときに全員タブレットPCを購入して入学してきますし、武雄青陵中学校の生徒には、一人1台タブレットPCの貸与があります。

武雄高等学校と武雄青陵中学校では、これらのICT機器を活用して授業が行われています。

6 教育課程の特色

(1)武雄高等学校

授業は月曜から金曜まで50分×7限授業で、1,2年生は週35単位、3年生は週34単位の教育課程を組んでいます。3年生が1単位少ないのは、補充授業や個別指導、担任による面談などの時間を確保するためです。

履修コースと履修科目について、1年次は芸術以外すべて共通履修としています。2年次以降は文系コース・理系コースに分かれます。

(2)武雄青陵中学校

武雄青陵中学校の教育課程は、国の標準の週1015時間としています。ただし、授業は月曜から金曜まで50分×6限授業を行っており、また、高校入試がなくゆとりもありますので、数学では高校の内容を一部先取りして指導しています。

7 授業外の学習指導の特色

(1)武雄高等学校

①長期休業中の補習(全員対象)

毎年、夏季休業中と冬季休業中には補習授業が行われます。夏季休業中の補習は、1,2年生は7月末までと8月の盆明けから8月末まで、3年生についてはそれに8月上旬の約1週間が加わります。また、冬季休業中については、全学年12月28日までと1月4日から補習が行われます。

②土曜セミナー(全員対象)

毎月第2、第4土曜日は土曜セミナーが行われます。70分×3限授業です。

③ハイレベル補習(希望者対象)

毎週月曜日の放課後には、難関大学への進学を希望する生徒を対象としたハイレベル補習が行われます。

④放課後補習(全員対象)

3年生は、6月以降、平日放課後に補習が始まります。

⑤難関大補習(希望者対象)

3年生は、6月以降、平日放課後に行われる全員対象の補習の後に、難関大学への進学を希望する生徒を対象とした難関大補習が行われます。

(2)武雄青陵中学校

①青陵タイム

武雄青陵中学校では、毎日朝は15分間、夕方は25分間、青陵タイムという時間があります。朝は読書が中心ですが、今年度は、3年生は毎朝タブレットPCを用いた英語の学習を行っています。また、夕方の青陵タイムでは、授業の補充指導などが行われています。

②夏季休業中の補習

毎年8月上旬に1週間ほど補習授業が行われます。また、8月最後の1週間は、授業の補充のために授業日に設定しています。

③土曜ハイレベル講座

3年生の2学期から、難関大学への進学を希望する生徒を対象とした土曜ハイレベル講座を行っています。ほぼ毎週行われ、成績上位層の生徒にとっては非常に良い刺激になっています。

8 本校の数学教育

(1)カリキュラム

①武雄青陵中学校

1年 週4時間

2年 週3時間

3年 週4時間

②武雄高等学校(括弧内は単位数)

1年 数学I(2) 数学A(2) 数学II(2)

2年文系 数学II(3) 数学B(2)

理系 数学II(1) 数学B(2) 数学III(4)

3年文系 数学II(2) 文系数学探究(3)

理系 a 型 数学Ⅱ (2) 理系数学探究 (5)

理系 b 型 数学Ⅲ (2) 理系数学探究 (5)

(2) 学力向上への取り組み

①少人数指導や TT

中学 1 年生は全クラス全時間で TT を、また、中学 3 年生は全クラス全時間で 1 クラス 2 展開による習熟度別少人数指導を行っています。

高校 1 年生は 2 クラス 2 展開や 3 クラス 3 展開の習熟度別授業を、高校 2 年生は、文系コースでは 2 クラス 3 展開の習熟度別少人数指導、理系コースでは 3 クラス 3 展開の習熟度別授業を行っています。さらに、高校 3 年生は、文系コース、理系コースそれぞれで、3 クラス 4 展開の習熟度別少人数指導を行っています。

②生徒への宿題

武雄高等学校では、毎日の授業の最後に「日々課題」というプリントを 1 枚配布しています。これは、基本事項の定着のための復習プリントですが、提出率も非常に高く、年間 150 枚を超えるプリントは本校数学教育の特色の一つになっています。また、週末や長期休業中の宿題は各学年担当に任せてありますが、量はそれほど多くはありません。

(3) 数学科での ICT 利活用

①電子黒板の利用

高等学校、中学校ともに、電子黒板にはデジタル教科書がインストールされています。授業では、主にこのデジタル教科書を利用して教材の提示を行います。また、GRAPES 等を用いて自作した教材を提示することもあります。もちろん、電子黒板上に赤線を引いたり、重要な箇所をマーカーで強調したりもできます。特に、関数の分野や図形の分野など、動きがある分野では、生徒の理解の助けになっています。

他にも、生徒のタブレット PC の画面を映し出すこともできますので、生徒がタブレット PC 上で問題を解いている場合は、そのまま電子黒板に映し出して添削ができます。さらに、生徒がノートに解答を手書きしている場合は、教師用タブレット PC を用いて生徒の解答を写真に撮り、そ

れを電子黒板に映し出すこともできますので、その添削もできます。問題演習の際に、生徒に黒板に板書させる手間が省けます。



武雄青陵中学校での少人数授業

②タブレット PC

生徒たちがタブレット PC を最も利用するのは、探究（総合的な学習の時間）などの授業で、インターネットを利用した調べ学習においてですが、数学の授業でも活用することがあります。

例えば、OneNote を利用して課題プリントを作成し、それを生徒のタブレット PC に一斉に配布することができます。生徒は配布された OneNote のプリントにタブレット PC 上で直接解答を作成していくことができます。そのようにしてできあがった課題を一斉に回収することもできます。そして、模範的な解答を電子黒板に映し出して全員に紹介することもできます。OneNote は反応もいいのでストレスは感じませんし、究極のペーパーレスになります。

ICT 機器の利用方法については、まだまだ模索中ですが、少しでも授業の質を向上させるよう積極的に利用していきたいと考えています。



電子黒板とタブレットを用いた学びあい学習
(文責 佐賀県立武雄青陵中学校 副島一寿)